



パラバドミントンの強豪国
インドネシアの代表選手、
スルヨ・ヌグロホ選手。
来日の際、町田市を訪れた感想や、
スポーツへの思いを
語っていただきました。



パラバドミントン インドネシア代表

スルヨ・ヌグロホ
スポーツは国境を越える!

NUGROHO SURYO



? パラバドミントンってどんなスポーツ?

座ってプレーする車いす、上肢障がい、下肢障がい、低身長の上肢障がいの程度によりクラスが分けられ、それぞれのクラスでメダルを争います。東京2020パラリンピック競技大会から正式競技に。

町田市民の心のあたたかさに感動

パラバドミントンをやってみよう!とおもったきっかけ

バドミントンを始めたのは7歳のときです。その前にもプレーはしていましたが、実はサッカーに夢中でした。父が僕のプレーを見て可能性を感じ、バドミントンを勧められて、クラブに入り真剣に練習をしました。11歳のとき事故にあって左手を失い、当時は悲しくて悔しくて、外に出るのも恥ずかしくて…。バドミントンどころかスポーツをするなんて考えられませんでした。約3年間、その悲しみから抜け出せずにいて、バドミントンもやめてしまいました。そんなとき、ヌルコーチに誘われてパラバドミントンの練習を見学しました。そこで、また自分もスポーツができるんだ!とやる気が湧いて、パラバドミントンをやろうと思いました。

絶対に、パラリンピックで優勝したい

今の夢は、パラリンピックで優勝することです。現在、僕は世界ランキング3位ですが、同じインドネシアに僕より上位の選手がいるので、すぐには東京2020パラリンピック競技大会への出場権は得られません。でも、まだ出場

できる可能性はあるので、あきらめてはいません。もし東京2020パラリンピック競技大会に出場できなくても、次回のパリ2024パラリンピック競技大会出場に向けてにすぐに気持ちを切り替え、優勝を目指すつもりです!

インドネシアではパラスポーツが普及

インドネシアでは、ジャカルタで開催された2018年アジア競技大会、アジアパラ競技大会のおかげで、国民がパラ競技を知るきっかけになりました。政府からパラ競技も同じように扱ってもらい、P Rしてもらったのです。そして、どちらも国を代表して戦うアスリートとして、多くの国民から認めてもらえるようになり、パラ競技をやりたい!観てみたい!という声も増え、アジアパラ競技大会ではどの競技場も満席になりました。選手も関係者もとてもうれしかったです。それが一過性のものでなく、今後さまざまな大会でも続いてほしいと心から願っています。

町田市を何度か訪れて

これまで町田市には、2017年と2019年にトレーニングキャンプを訪れています。町田市は、まちがきちんと整備されて

いて、ごみも落ちておらず清潔で、こんなにもきれいなまちは今まで見たことがありませんでした。町田市民のみなさんが、自分のまちを大切に守っているんだと強く感じました。そして、あたたかくインドネシアの選手団を迎えてくれました。合宿の練習見学に参加してくれたみなさんは僕たちを尊重してくれて、とても良い関係が築けたと思っています。町田市での合宿後、国立代々木競技場で行われた大会に町田市民のみなさんが応援に来てくれて、インドネシアの選手も応援してくれたことに感動しました。

最後に、子どもたちへメッセージを

スポーツは、人と人を結びつける素晴らしい力を持っています。住んでいる国や言葉が違ってても、スポーツを通して友達や仲間になれることを、町田市を訪れたときに実感しました。スポーツをすることで健康な心と体を育て、たくさん仲間をつくってほしいと思っています。僕たちは、笑顔や笑いに包まれた中で真剣に練習しています。町田市の子どもたちはもちろん、大人のみなさんもスポーツをやって、楽しさを知ってもらえたらうれしいです。

※町田市は2019年4月にインドネシアのホストタウンへ登録をしています。選手団の合宿受け入れや、選手と市民の交流イベントを通して、同国と親交を深めています。

[プロフィール]

1995年生まれ。11歳のときにバイクの事故にあって左ひじ下を失い、パラバドミントンのSU5(上肢障がい)クラスの選手に。2016年アジア選手権の男子シングルスで優勝、男子ダブルスで準優勝。BWFパラバドミントン世界選手権では、男子シングルス2位。2020年12月時点で男子シングルス世界ランキング3位。

